



1 日本診療放射線技師会、原子力災害対策指針に基づく原子力災害医療協力機関に指定される

2025年2月12日の第62回原子力規制委員会において、「原子力災害対策指針」および指定要件の改正に伴い、日本診療放射線技師会（JART）が「全国規模での原子力災害医療協力機関」として適切か審議され、全会一致で指定されました。これにより、JART会員は原子力災害時に必要となる基礎・専門研修を受講できるようになります。特に「甲状腺簡易測定研修」の受講が推進されています。JARTは国や高度被ばく医療支援センターなどと連携し、全国での研修実施体制の整備を進める方針です。今後は研修内容や受講条件などの周知を図り、災害時に国民の安心・安全を支える体制づくりに寄与していきたいと考えています。



2 「股関節撮影時の生殖腺遮蔽の見直し」についての共同声明と「小児股関節の生殖腺シールド廃止のポスター」について

日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本放射線技術学会、そして日本診療放射線技師会の4団体は、「股関節撮影時の生殖腺遮蔽の見直し」に関する共同声明を取りまとめ、公表する運びとなりました。本声明は、これまでの知見や最新のエビデンスを踏まえ、生殖腺遮蔽の適用や安全性について再評価を行い、適切な対応を推進することを目的としています。また新たな取り組みとして「小児股関節の生殖腺シールド廃止」に関する啓発ポスターも作成致しました。医療現場での理解の促進と適正な対応に資するため、各施設での掲示や説明資料としてご活用いただけますと幸いです。



3 ワクチン筋注行為に関する実技講習会を開催しました

2022年12月9日の厚生労働省医政局長通知により、今後、パンデミックが発生した際、国や自治体の要請を受けて診療

放射線技師がワクチン接種を行うことが可能となりました。ただし、対象は「令和3年厚生労働省告示第273号研修（告示研修）」の修了者に限られます。しかし、同研修には筋肉注射の内容が含まれていないため、JARTは「ワクチン筋注行為に関するオンデマンド講習および実技講習会」を新たに準備しました。第41回日本診療放射線技師学術大会では大規模な実技講習会を開催し、3日間で計554人が修了しました。修了者は各地で講習のファシリテーターとして活躍が期待され、JARTは数年以内に約2万人の修了を目標としています。なお、本講習を受けても通常の診療業務としてのワクチン接種などは行えません。



4 第41回日本診療放射線技師学術大会 開催される

第41回日本診療放射線技師学術大会は、2025年9月12日から14日まで福井市AOSSAを主会場として開催され、約1,500人が参加しました。大会テーマは「放射線技術のイノベーション」で、開会式では永年勤続表彰や各賞の授与式が執り行われました。シンポジウムでは、認知症診療における画像診断や多職種連携、股関節撮影における生殖腺遮蔽の見直しなど、実務に直結する課題が議論されました。

会長講演では「JART Vision 2040」に基づき、人口減少社会における診療放射線技師の役割や今後の取り組みが示さ



れました。また原子力災害対応や医療被ばく管理、タスク・シフト/シェアの推進、救急医療で求められる知識など、多角的な視点から将来像が共有されました。本10大ニュース3のワクチン筋注行為に関する実技講習会も実施され、多くの参加者が受講しました。

一般演題約340題、国際演題8題が発表され、STAT画像やAI、深層学習を活用した研究が注目を集めました。活発な議論・交流が行われ、診療放射線技師の専門性向上と社会的貢献の可能性が示された大会となりました。

5 欧州放射線学会（ECR2025） ISRRTセッションで上田会長と富田副会長が講演を行う

2025年2月26日から3月2日までオーストリア・ウィーンで開催された欧州放射線学会（ECR2025）において、ISRRTセッションで上田会長が登壇しました。「日本における診療放射線技師の免許制度と業務拡大、キャリア構造」や「放射線治療・重粒子線治療の現状と展望」について講演し、日本の制度や専門性向上の取り組みを国際的に紹介しました。また富田副会長は、同セッションで「日本におけるデュアルエナジーCTおよびフォトンカウンティングCTの現状」について講演し、新技術の導入状況や臨床応用を具体例とともに報告しました。これらの発表は、日本の放射線技術を世界に発信し、国際交流の推進に寄与しました。



6 日本診療放射線技師会 公式LINEがスタートしました！

日本診療放射線技師会では、迅速な情報提供を目的に公式LINEアカウントを開設しました。重要なお知らせ、最新イベント、研修情報などをタイムリーに配信致します。主な内容として、会の活動報告、研修・セミナーの案内、災害時の

緊急連絡などを届けします。

登録は簡単で、LINEアプリ内で「日本診療放射線技師会」を検索するか、2次元バーコードを読み取るだけでフォローできます。本アカウントを通じて、会の取り組みをより身近に感じていただけるよう発信を強化してまいります。皆さまのご登録をお待ちしております。

7 ITEM2025国際医用画像総合展 (ITEM in JRC) 開催される

2025年4月11日から13日までの3日間、パシフィコ横浜でITEM2025国際医用画像総合展が開催され、来場者は延べ23,155人に達し大盛況となりました。本会は今回初めてブースを出展し、JARTの活動紹介や入会促進を行い、約500人に対応しました。ブースでは、小児股関節生殖腺シールド廃止ポスターや新卒向けパンフレット、検査説明資料、学術大会ポスター、公式LINE案内、求人案内などを配布し、検査説明動画や学術大会案内映像も放映しました。特に、小児股関節生殖腺シールド廃止ポスターは放射線科医からも注目を集め、多くの方が施設掲示用に持ち帰りました。また養成校教員と学生の訪問も多く、職能団体の役割を伝える好機となりました。展示スペースが限られたため混雑する場面もあり、今後の改善が課題です。会期中、本会および福井県技師会、次年度開催地の山形県技師会関係者が企業を訪問し、協力依頼や意見交換を行いました。AI活用による最新技術にも触れ、医療被ばくの最適化と技術進歩の重要性を再認識する機会となりました。



8 令和8年度診療報酬改定に関する要望書を林医療課長に提出

2025年4月22日に上田会長、江端業務執行理事、堀住事務局長の3人が厚生労働省医療課を訪問し、「令和8年度診療報酬改定に関する要望書」を提出しました。要望は①医療DX推進や情報管理における診療放射線技師の評価②医療被ばく低減施設認定への取り組み評価③画像診断用ディスプレイ保守管理を施設基準に位置付けること——の3点です。林医療課長からは、今秋に向け内容を精査する意向が示され、

現場の状況や他団体との調整に関する意見も共有されました。今回の早期提出は会員のアンケート協力と委員会の迅速な対応による成果であり、今後は中長期的視点で要望を継続的に検討していく方針です。



9 第88回公益社団法人日本診療放射線技師会定時総会 開催される

2025年6月14日、第88回定時総会が本会事務所会議室で開催され、Web会議とe投票システムを併用し、YouTubeでも中継されました。開会に当たり上田会長は、医療従事者の待遇改善の遅れが医療危機を招く可能性に言及し、抜本的な対策の必要性とアンケート協力を呼び掛けました。続いて令和6年度物故者43人への黙とう、功労表彰者の紹介が行われました。議事では、令和6年度事業・決算報告、令和7年度事業計画・予算が提示されたほか、理事数拡大と全体構成見直しに関する定款・規程改正案が審議され、いずれも賛成多数で承認されました。学術大会の開催案内後、富田副会長の閉会の辞で総会は終了しました。

10 「JART Plus (JART会員無料コンテンツ) お試し動画」について

このたび、生涯教育eラーニングはシステム更新に伴い、2025年6月1日より視聴開始となりました。会員の皆さまのみがご利用いただける特典として、ラダーレベル1・2の動画コンテンツ（全7本）をお試し視聴していただけるよう準備致しました。日々の業務の合間など、時間を有効に活用しながら学習していただけます。

※お試し視聴のため学術カウントは付与されません。今後、より充実したコンテンツ提供に努めてまいります。詳細は本会ホームページよりJART情報システムにログインし、JART Plus内「お試し動画」からご覧ください。

【現在は視聴できません】

2025年度 第4回理事会 開催される (Web併催)

2025年10月4日(土)午後2時より、2025年度第4回理事会が鈴鹿医療科学大学でWeb会議システムを併用して開催されました。理事会開催前には、令和6(2024)年度の物故会員に対し、JART記念館前に設置されている顕彰碑への入魂式が執り行われました。

冒頭に上田会長よりあいさつがあり、第41回日本診療放射線技師学術大会開催へのねぎらい、顕彰碑の清掃管理へのお礼、そして第19回JSRT・JART合同公開市民講座が盛況であったことについて述べられました。

理事会の主な議題は、「第43回日本診療放射線技師学術大会の日程と会場」と「会員情報システムの更新」でした。

まず鈴木理事より、第43回日本診療放射線技師学術大会の日程と会場について、2027年9月25日(土)・26日(日)の2日間、福岡国際会議場で開催するとの報告がありました。またAsia radiation Therapy Symposium (ARTS) および国際発表のセッションを1日開催し、会場設定は、4・5階で4つの会議室を使用して7会場の設置を想定していること、他のフロアの会議室も使用するなど会場設営の変更も可能であるとの説明がありました。審議の結果、本件は全会一致で承認されました。

続いて園田理事からは、会員情報システムの更新について説明がありました。現システムの更新理由として、①使用方法が分かりづらいこと ②地区技師会との連携強化ができないこと ③現システムの費用が増加していること——が挙げられました。現システムは、講習会の申し込み、試験、認定書の発行、領収書の発行まで複雑であり、また自身のラーニングレベルや認定取得情報が分かりづらいので、理想はオールインワンで会員にとって分かりやすいシステムとし、スマートフォンやタブレットからでも簡単に操作・表示できるものに変更することです。また地区技師会との連携を強化し、地区技師会も利用できるシステムとします。現在は会員情報システムにログインするたびに費用がかかるため、使用頻度に関わらず安定した費用で利用できるシステム導入が必要です。以上のことから、会員情報システム委員会で事前に審議した結果、今後の会員の使いやすさと地区技師会との連携強化のため、システムごと変更する提案があったことが説明されました。

本システムの運用方法については、①現状維持 ②システムベンダーは継続し改修する ③現システムを使用してシステムベンダーを変更し、改修する ④システムベンダー・システムを変更し、新たにシステムを構築する——という4つの提案がなされました。また各運用変更にかかる費用の説明がありました。

中村監事からは「現在、提案されている企業のみの随意契約でよいのか、新たに他社からの見積もりを取る必要はないのか」との意見があり、要求仕様書の作成や、企業選定の経緯説明ができるなど、しっかりとした検討が必要であるとの指摘がありました。

園田理事からは、全国で実績の一番高い企業を対象としていること、当初は現在の契約企業で改修を進めていたが、経費が高額になることや期限までに的確な回答が得られなかつたこと、現システムの契約更新時期を考慮した複数の提案について検討した結果であるとの説明がありました。追加質問や意見はなく、審議の結果、本件は全会一致で承認されました。

その他の議題として、地域で日本放射線技術学会地方支部と合同開催されている学術大会の主催の表記、委員会・特別委員会・分科会の名称変更と委員の変更・追加、オートプレー・イメージング認定事業の廃止、入会者・退会者・会費免除の承認についても審議され、全て全会一致で承認されました。

報告事項として、堀住事務局長より会員動向について報告がありました。2025年8月末の時点では、会員数が34,168人、組織率は57.7%であり、例年の同時期より入会者が少ない現状が説明されました。中村監事より、新規入会者数が例年同時期と比較して減少していることについて意見があり、入会促進に向けてさらなる取り組みを行うこと、フレッシャーズセミナー開催の効果を検証することなどの要望がありました。

福井県の村中会長からは、第41回日本診療放射線技師学術大会について340演題の発表、事前参加登録1,892人、3日間で延べ2,753人の会場参加があり、ワクチン筋注行為に関する実技講習会は、3日間で554人の受講があったことが報告されました。

菊地理事からは、告示研修の実施状況について2025年7月の時点で基礎研修修了者は39,793人、実技研修修了者は35,065人で、全診療放射線技師の59%が受講済みであること、2026年度以降の告示実技研修については、東西2地域で各6回開催し、目標受講数は576人/年を計画しているとの報告がありました。他に各地域理事、各種委員会、分科会から45項目の報告がなされました。

最後に、上田会長が「本会を取り巻く環境も少しずつ変化している。情報共有をお願いしたい。また新規入会促進にも努めていただきたい」と述べられ、本理事会は終了しました。

詳細は、会誌に掲載される2025年度第4回理事会議事録(抄)をご参照ください。

令和7(2025)年度入魂式 執り行われる

2025年10月4日(土)午後1時30分より、令和7(2025)年度の入魂式が鈴鹿医療科学大学で執り行われました。これは、前年度にご逝去された会員の魂(みたま)を本会顕彰碑に入魂する行事です。例年は、残暑の日差しが厳しい中で執り行われていますが、今年は小雨が降る天候の中での典礼となりました。会長に続き、副会長、理事、監事、事務職員らが顕彰碑に献花をお供えしました。会議室に移動した後、園田理事から令和6(2024)年度の物故会員43人全員の氏名が読み上げられました。出席者全員で黙とうをささげ、厳粛な雰囲気のうちに閉式しました。改めまして、ご逝去された会員の方々に謹んで哀悼の意を表します。

また日頃から顕彰碑を管理いただいている鈴鹿医療科学大学の先生方ならびに一般社団法人三重県診療放射線技師会役員の皆さまに感謝申し上げます。



令和7(2025)年度中間監査 実施される(ハイブリッド開催)

2025年10月20日(月)午後2時より、本会事務所およびWeb参加によるハイブリッド形式で小川清監事、中村勝監事、梅本啓監事を迎え、令和7(2025)年度中間監査が実施されました。

冒頭、上田克彦会長より本年度事業の総括と現状報告が行われ、続いて園田優理事より上半期の庶務報告ならびに各種委員会・分科会の活動状況、入会状況について説明がありました。

その後、事業項目ごとに園田優理事および江端清和業務執行理事より事業報告および会計報告が行われ、最後に江端業務執行理事より正味財産増減計算書および財産目録について説明がありました。

監事からは、以下の3点について意見が述べされました。

①会員数の増加と会費の減額検討

会員数の伸び悩みを踏まえ、会費の減額を含めた検討が要請されました。会員の講習会受講料無料化実施後も入会が伸びていない現状を指摘し、追加施策の検討が求められました。

②日本放射線医療技術学術大会の評価・検証と今後の運用

学術大会について、両団体による評価および検証を行い、次回以降の運用方針を明確化するよう要請されました。

③会員情報システム(JARTIS)の計画的更新と運用見直し

期限内の更新を最優先としつつ、要求仕様書の完成度向上および現行運用の見直しが求められました。



閉会に当たり、上田克彦会長より監査および指摘事項に対する所見が述べされました。

全体として「本会の運営は透明性を保ち、適正に行われている」との認識が示されました。過年度預り金等流動負債の財務的処理が不十分である点が指摘されたため、今後、適正な処理を進めていくことが確認されました。また監事からの3点の指摘については、それぞれ改善方針をもって対応する旨が表明され、特に会員増加対策については、全国診療放射線技師教育施設協議会との連携強化を図る意向が示され、2時間30分に及んだ中間監査は終了しました。

令和7(2025)年度 全国診療放射線技師教育施設協議会との懇談会 開催される (Web併催)

2025年10月25日(土)午後2時より、日本診療放射線技師会(三田国際ビル会議室)で、令和7(2025)年度 全国診療放射線技師教育施設協議会との懇談会がWeb会議システムを併用して開催されました。JARTからは、上田克彦会長、富田博信副会長、江藤芳浩副会長*、江端清和業務執行理事*、園田優総務理事が、全国協議会からは、市川勝弘会長、児玉直樹副会長、妹尾淳史総務担当理事、山本智朗告示研修担当理事、藤淵俊王国試IT担当理事が出席しました(* Web参加)。

冒頭、両会長よりあいさつが行われ、続いて協議ならびに情報共有が進められました。本年度の協議事項として、JARTよりカリキュラム改正に関し、臨床実習生の行為範囲

の明確化、指導者講習会修了の義務化、診療参加型実習に向けた統一評価基準、1単位当たりの時間数、第三者評価の在り方、臨床に即した教育内容および単位数見直しが示され、活発な意見交換が行われました。

報告事項として、JARTより新卒者の入会金・年会費の無料化、学生向け求人情報のSNS配信、倫理啓発・コンプライアンス意識向上、生殖腺シールド廃止、優秀学生表彰が紹介され、全国協議会からは事業報告がなされました。昨年度に引き続き、教育機関とJARTが連携し、制度改革や実習体制の充実に向けて協働することが確認され、和やかな雰囲気の中で閉会しました。

2025年秋の叙勲受章者

—おめでとうございます—



旭日双光章
瑞宝双光章

熊代 正行 (岡山県)	近藤 裕二 (愛知県)	秋永 不二夫 (福岡県)	市川 重司 (埼玉県)	金津 武弘 (滋賀県)
仙臺 真紀夫 (神奈川県)	田村 久雄 (群馬県)	布谷 直人 (徳島県)	内藤 二郎 (長崎県)	永廣 順治 (熊本県)
佐藤 浩 (東京都)	布谷 直人 (徳島県)	井下 富夫 (東京都)	日戸 宏治 (北海道)	松井 久男 (滋賀県)
中山 進 (埼玉県)	阿部 真治 (愛知県)			川田 直伸 (徳島県)
齋 政博 (宮城県)				(敬称略・順不同)

INFORMATION

JART求人広告掲載について

INFORMATION

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随时受け付けてあります。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(手続きについて→各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。
なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

本会への入会手続きについて(お知らせ)

INFORMATION

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ① 本会ホームページ (<https://www.jart.jp>) 右上の“新規入会”をクリック
- ② 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL : 03-4226-2211 E-mail : info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

第15回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2025) 開催報告 (ハイブリッド開催)

公益社団法人日本診療放射線技師会 令和7年度東北地域学術大会
公益社団法人日本放射線技術学会 東北支部 第63回学術大会

公益社団法人青森県診療放射線技師会
大会長 佐藤 兼也

本大会は2025年10月11日(土)・12日(日)、JART(公益社団法人日本診療放射線技師会)とJSRT(公益社団法人日本放射線技術学会)の合同開催として実施されました。開催に当たっては、参加者の地理的な不便さも考慮に入れ、現地参加とWeb参加を組み合わせたハイブリッド方式が採用されました。参加者数は現地参加が453人、Web参加を合わせた合計は523人にのぼり、大変な盛況となりました。またJARTの上田会長およびJSRTの石田代表理事にもご参加いただき、大会の重要性が高められました。



JART 上田会長



JSRT 石田代表理事

本大会の開催テーマは「We Can TRANSFORMATION ! —共創と共に業」を掲げました。これには昨今の医療情勢を取り巻く課題、特に医療DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に対し、われわれ診療放射線技師が多職種との連携(共創と共に業)を通じて積極的に取り組み、時代の変化に対応して変容していくけるのだ、という強い期待と決意が込められています。

学術プログラムにおいても、テーマに沿った活発な発表と深い議論が展開されました。学術交流の柱となる一般演題は93演題の発表があり、最新の研究成果が共有されました。また企画セッションとして、JART企画が6つ、JSRT企画が8つ、そして実行委員企画が2つ組まれました。特に特別講演では、弘前大学医学部附属病院の掛田伸吾先生をお招きし、地域の特性に合った貴重なご講演を賜り、地域医療の未来を考える上で示唆に富む時間となりました。また実行委員企画では、診療放射線技師の未来を見据えた重要なテーマが扱われました。具体的には、医療DXにおける他職種の取り組みを紹介するセッションや、弁護士の先生による法律の観点からの診療放射線技師の倫理観に関するご講演など、非常に勉強に



なる内容が提供されました。

今回の大会では、参加者の皆さんにより楽しんでいただくため、新しい試みとして初めての企画が実施されました。それは青森駅から会場のリンクステーションホール青森までの道中を利用した、7モダリティーのクイズラリーです。沿道の商店街にご協力を頂き、クイズポスターを掲示させていただきました。クイズは非常にニッチな専門知識を問うものでしたが、各モダリティーの優勝者には「クイズ王」として表彰が行われ、学術的な知識の再確認と地域連携を兼ねたユニークな試みとして成功を収めました。

TCRT 2025 クイズラリー in AOMORI



青森駅からTCRT青森会場まで徒歩約30分…
ただ歩いていくだけじゃつまらない

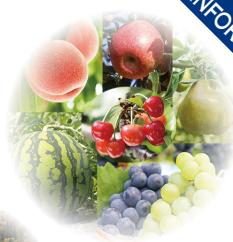
2日間にわたる大会は天候にも恵まれ、大きなトラブルもなく無事に全てのプログラムを終了することができました。これはひとえに、実行委員長をはじめとする多くの実行委員、関係各位の献身的なご尽力のおかげであり、この場を借りて心より感謝申し上げます。

第3回

第42回日本診療放射線技師学術大会

山形への道 Go To YAMAGATA

INFORMATION



副大会長 佐藤 晴美

(一般社団法人山形県放射線技師会 事務局長)

山形県とは？

「山形への道」第3回からは、来年の第42回JCRT山形大会に向けて、知っていると得する情報や、さらに楽しめる情報をたっぷりと紹介していきます。

まずは山形県放射線技師会の紹介です。2025年3月末で会員数は405人、組織率は84.7%と全国2位です。4月から新卒者のJART入会費用が免除されましたので新入会者が増加しています。また女性技師の割合は約38%で、こちらは全国1位です。山形県の女性就業率も全国上位で、M字カーブ（30～39歳の就業率が低い）がほとんど見られない北欧諸国にも匹敵する結果で、仕事に家庭に大きな役割を果たしています。結婚や出産で仕事を辞める技師がほとんど見られないのは「三世代同居」と「祖父母力が絶大」、そして「男性育休白書2025」で山形県の「男性育児力」が全国第5位と、社会環境が整っているからといえるでしょう。

次に県民性についてですが、厳しい自然環境の中でもコツコツと働き、家族に尽くし、文句一つ言わず超が付くほど真面目。うそやごまかしができず、不器用ではあるけれど純朴でまっすぐな正直者——とGoogle先生は答えてくれました。シニア層の中には1983年にNHKで放映された『おしん』をご記憶の方も多いはずです。皆さまのお知り合いの中に山形県民はいらっしゃいますか？県民性はきっと当たっていると思いますが、いかがでしょう！（笑）

そして厳しい冬を過ごすためか、日本一会話が短いのも有名です。たった一文字、「け」「く」。お分かりになりますか？解説しますと、「け（食）」は「おいしい食べ物を用意しましたので、どうぞお食べください」という意味です。そして「く（食）」は「ありがとうございます。有り難くごちそうになります」となります。二字では「どさ？」「ゆさ」です。「どさ？」は「何処に行くの？」となり、「ゆさ」は「これから、温泉に行くところだ」となります。

有名な言い回しでは「①」「(1)」です。山形では「①」は「いちまる」、「(1)」は「いちかっこ」と言います。理由は筆順通りに読み上げているだけで、至ってシンプルです。他には「ゴミ捨て」は「ゴミ投げ」と、山形語録は底なし沼のようです。来年、山形でぜひ体感してください。

以上から、口数は少ないけれど、気持ちの中には熱いものを秘めており、目標を実現するために粘り強く頑張る山形県民が見えてきたでしょうか？

魅力満載の山形県です。まだまだ紹介が足りませんが、次回以降に期待してください。第42回JCRT山形大会を盛り上げ、来形していただいた方の記憶に残る大会になるよう、山形県放射線技師会全会員でお迎え致します。

「来てけろな、山形さ！待ってっからな～」



福井大会山形ブース



福井大会山形チーム（上田会長、福井県・村中大会長と共に）



JCRT42
YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@JCRT42>



山形県放射線技師会
Facebook
<https://www.facebook.com/profile.php?id=61574051232747>



山形県放射線技師会
Instagram
<https://www.instagram.com/yamahogi/p/>



第42回 The 42nd Japan Conference of Radiological Technologists 日本診療放射線技師学術大会

第33回 東アジア学術交流大会

The 33rd East Asia Conference of Radiological Technologists (EACRT)

新たな潮流 紡ぐ灯

人とAIがもたらす放射線技術の未来

JARTスローガン

安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう

日時

2026
9/11 Fri - 13 Sun

場所

山形ビッグウイング
(現地開催+オンデマンド)

立石寺 (山寺) 不滅の法灯

会長

上田 克彦
公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長

主催 | 公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催 | 一般社団法人 山形県放射線技師会

大会長

鈴木 幸司
一般社団法人 山形県放射線技師会 会長

後援 | 厚生労働省 (予定) / 公益社団法人 日本放射線技術学会
山形県 / 山形市 (予定)

大会事務局

一般社団法人山形県放射線技師会
〒990-9585 山形県山形市飯田西 2-2-2 Tel: 023 (628) 5786 Fax: 023 (628) 5799
E-mail: 42jcr@gmail.com
山形大学医学部附属病院放射線部内

論文投稿のススメ

9月に福井市で開催された第41回日本診療放射線技師学術大会に参加しました。3日間で延べ2,700人を超える参加者がおり、福井県企画の恐竜の研究に関する講演や原子力災害関連のシンポジウムなど、大変興味深く聴講しました。またワクチン筋注行為に関する実技講習会が全国開催に先駆けて行われ、初日の開会時間前から長蛇の行列ができていたことから、会員の皆さんの中モチベーションと関心の高さがうかがえました。演題発表は口述・ポスター合わせて340演題あり、発表データの事前配信も大変有用でした。

本会会誌では学術論文を掲載していますが、ここ数年、論文投稿数が減少傾向にあります。今回、座長から優秀発表の推薦を多く頂き、「論文投稿のススメ」を改めて皆さまにお知らせ致します。論文投稿には、通常業務で忙しい中で執筆を進めため、かなりの労力と決断が必要になります。査読を経て採択



されるまでが容易ではないことも事実です。

論文には「新規性・有用性・創造性」の要素が必要とされますが、これらは日常の臨床業務の中にも数多く存在しています。論文投稿の流れは、単に「①結果をまとめる②文章を書く③投稿する④査読を受ける」というステップです。過去の文献も参照しましょう。

「この研究が論文に適しているか否か」をご自身で判断する必要はありません。自分の研究や報告は、学術大会に参加されたごく一部の方が聴講するに過ぎません。研究成果を論文として公開することで、より多くの方に情報を共有でき、ご自身の研究が他の施設の臨床に役立ったり、新たな研究につながったりするなど、無限の可能性を秘めています。「さあ、論文を書こう」「会誌にどんどん投稿しよう！」

(文責:木口 雅夫)

12月・1月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 放射線取扱主任者定期講習	東京	2025年12月19日(金)
■ 生涯教育セミナー（放射線治療計画・応用編）	大阪+Web開催	2026年1月17日(土)
■ マネジメント研修会（マネジメントラダーLv3）	Web開催	2026年1月17日(土)
■ マネジメント研修会（マネジメントラダーLv4-1）	Web開催	2026年1月18日(日)
■ 認定資格試験：全国のCBTテストセンターのパソコンで試験を実施（テストセンター一覧： https://cbt-s.com/examinee/testcenter/ ）		2026年1月18日(日)まで実施
■ 画像等手術支援分科会3Dハンズオンスキルアップセミナー（初級編）	東京	2026年1月18日(日)
■ エックス線撮影WGセミナー	Web開催	2026年1月20日(火)
■ がん医療の均てん化に向けた放射線治療セミナー（基礎編）	Web開催	2026年1月25日(日)
■ STAT画像所見報告セミナー	Web開催	2026年1月26日(月)

■ 告示研修（実技研修）／業務拡大に伴う統一講習会：

本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

【e-ラーニング（ストリーミング方式）】

■ 医療放射線安全管理責任者講習会	2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
■ 死亡時画像診断（Ai）研修会	2026年2月2日(月)午後3時まで（予定） ※e-ラーニング形式。お問い合わせは日本医師会 医事法・医療安全課 03-3942-6506まで。
■ 認定資格の取得を目指す在宅講習	2025年12月19日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から各認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。 ※本講習会を修了しませんと、認定資格試験のお申し込みはできません。
■ 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修（在宅）	2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
■ 告示研修（基礎研修）	2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
■ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー	2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け ※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。
■ オンラインセミナー（在宅）	本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。
■ ワクチン筋注行為に関するオンラインセミナー	本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム（JARTIS）をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。